

## 会議議事録

事業名	平成 29 年度 職業実践専門課程 教育課程編成委員会・学校関係者評価委員会
学校名	大阪文化服装学院

会議名	平成 29 年度第 1 回 教育課程編成委員会・学校関係者評価委員会
開催日時	平成 29 年 7 月 28 日 (金) 16:00～18:00 (2 時間)
場所	大阪文化服装学院 会議室 (E41)
出席者	<p>①委員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 田中 誠一 (小泉アパレル株式会社 監査役)</li> <li>・ 糸井 弘一 (協同組合関西ファッション連合 事務局長)</li> <li>・ 志貴 昌弘 (シード株式会社 代表取締役)</li> <li>・ 植田 茂和 (株式会社玉屋 常務取締役)</li> <li>・ 萩原 直樹 (株式会社アーバンリサーチ 事業支援本部 経営企画室室長)</li> <li>・ 河野 あゆみ (株式会社エーツー 代表取締役社長)</li> <li>・ 江田 真由美 (株式会社エーツー マネージャー)</li> <li>・ 山名 かおり (大阪文化服装学院保護者代表)</li> <li>・ 岩光 栄太郎 (大阪文化服装学院すみれ会 会長)</li> <li>・ 森 慈郎 (学校法人ミクニ学園 理事長)</li> <li>・ 岩崎 一哉 (大阪文化服装学院 常務理事)</li> <li>・ 関 義徳 (大阪文化服装学院 校長)</li> <li>・ 松下 美恵子 (大阪文化服装学院 副校長)</li> <li>・ 大橋 等 (大阪文化服装学院 事務局長)</li> <li>・ 杉山 晶 (大阪文化服装学院 学科長)</li> <li>・ 榎原 寛 (大阪文化服装学院 学科長)</li> <li>・ 播岡 充 (大阪文化服装学院 学科主任)</li> </ul> <p>②書記</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 北橋 美弥 (大阪文化服装学院 教務事務)</li> </ul>

議 題	<p>1. あいさつ</p> <p>2. 平成 28 年度事業報告および学生募集・就職状況等の報告</p> <p>3. 質疑応答</p>
内 容	<p>1. あいさつ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 森理事長より、文部科学省のガイドラインに沿った「平成 28 年度自己評価」の説明。「専門職大学」設立準備に向けて平成 29 年 4 月には南館新校舎を、土地 5 億・建物 4 億の合計 9 億を賭けて竣工。図書室、教員研究室、アパレル素材教室を完備。損失計上では赤字になっているが、財務上では黒字。</li> <li>・ 「専門職大学」については、平成 31 年 4 月から開校予定だが、施行設置基準の原案が整わず 1 年延期。新機関の基準は、大学や短大に近く、「社会人の学び直し」であるはずが現実的でなくなっている。</li> <li>・ 平成 29 年 5 月に役員改選があり、森 光一学園長が理事を退任し最高顧問、岩崎一哉氏が理事に選任され、常務理事となった。</li> <li>・ クリエイター学科は、HEP ファッションデザインコンテストでグランプリを受賞。他コンテストでも多数受賞。ブランドマネジメント学科は、長期運営店舗プログラムで 600 万を売り上げた。</li> <li>・ 就職は、求職を希望しない 20%を除けば 100%。保護者会を開催し保護者の協力を引き出し、求職しない学生に対し意識改革を促す。</li> <li>・ これからの目標は、中国、韓国、香港、フィリピン等の服飾専門学校との連携を模索し、留学生の獲得にも本腰。</li> </ul> <p>2. 平成 28 年度事業報告および学生募集・就職状況等の報告</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 校長より新役員の山名かおりさんの紹介と委員会開催の遅れの理由とお詫び。</li> </ul> <p>その後、平成 28 年度自己評価報告書の説明(以下、①～⑩に詳細)</p> <p>① 28 年度の重点目標と達成計画 (教育)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ファッションクリエイター学科、ブランドマネジメント学科を中心に将来の職種選択に対応した多様な専攻コースを設置し、各コースのカリキュラムの充実を図る。</li> <li>・ クリエイター学科では、2 年次からクリエイティブデザイナー</li> </ul>

コースを定員 10 人で設置。ブランドマネジメント学科では、1 年次からプロデューサーコースを設置しコース選択する。

(学生募集)

- ・募集活動では出口戦略の強化をテコに、入学者数の増加→職業教育に特化した質の高い実践教育の推進という好循環を生み出す。この結果、高い就職率を維持し「就職に強い学校」という評価が定着。平成 29 年度入学目標を 305 人とする。

(就職率)

- ・就職率は平均 90%以上を堅持し、東西の大手アパレルを中心に就職者を増やす。

#### ② 教育理念・目的・育成人材像

- ・クリエイター系ではデザイナー職として就職する割合が 60%に達する一方、ビジネス系では総合職で就職する学生も目立つ。スタイリストでは東京での就職を希望する学生が年々増えつつあり、28 年度実績ではスタイリストアシスタントとして就職したのは 18 人。うち東京での就職は 9 人である。
- ・イタリア、アメリカ等の世界のファッション有力校と業務提携や研修を継続。今後は中国、韓国、台湾、香港、ベトナム、マレーシア、インドネシアのアジアの服飾専門学校との連携を深める。

#### ③ 学校運営

- ・2015 年度を最終年度とした中期 3 カ年計画を推進し、この 3 カ年で教育設備・機器への投資、校舎の美装化工事、耐震化を完了。
- ・2016 年度は創立 70 周年事業として、地上 4 階建て、延べ床面積 1000 平方メートルの新校舎を近隣に設立した。
- ・在籍者数の維持を図るため、継続して退学者の減少に取り組む。

#### ④ 教育活動

- ・現在の学科構成は、
    - スーパーデザイナー学科 (4 年制)
    - ファッションクリエイター学科 (3 年制)
    - ブランドマネジメント学科 (3 年制)
    - ファッションビジネス学科 (2 年制)
    - スタイリストマスター学科 (2 年制)
    - スタイリスト学科 (2 年制)
- 以上 6 学科。いずれも職業実践専門課程に認定済みである。

ブランドマネジメントマスター学科は28年6月に廃止届済み。

④ 学修成果

- ・育成した人材を企業に送り込み、就職後も一定の年数を勤務できるように、就職指導室、担任教員が連携し、就職相談・指導に当たってきた。平成28年度の就職率は98%。ただ、就職活動をしない学生が20%に達した。今後、働くことの意識づけ等、求職率の引き上げが急務であることで教職員の意識は一致。学内だけでなく、保護者にも協力を呼びかける。
- ・インターンシップ研修の参加を通して、就職を実現した学生の割合は50~60%に上昇した。

⑥ 学生支援

- ・中途退学率は10%弱で推移していたが、28年度は人数で94人、率で15%となり、急激に悪化した。特に1年次の退学が80%強を占めた。
- ・退学率低減の一環として、27年度に学校独自の就学金制度を拡充したが、今後は個別面談を通して転科等の措置を講じる。さらに入学面接時の評価のあり方も改善する。

⑦ 教育環境

- ・平成29年3月に新校舎が竣工し、図書室、素材室、教員研修室等の充実、駐車スペースを拡大。これに伴い、本館にミシン等を導入し、「縫製ミシン室」を増設した。図書室にはインターネットを通して世界のファッション情報を収集できる「WGSN」システムの導入を図った。今後、新コンテンツの導入を検討する。

⑧ 学生の募集と受入れ

- ・学生募集については、関西を中心に中四国、北陸、山陰、九州地区の一部で進学説明会に参加する。
- ・高校の進路指導教員と連絡を密にして、当校の教育活動等の特徴や成果等の情報提供を継続して実施。
- ・今後2~3年をかけて愛知県、岐阜県からの入学者増加に努める。
- ・29年4月時点で留学生12人。18歳人口の減少が続く中、社会人、留学生の増加に取り組む。

⑩ 社会貢献・地域貢献

- ・文部科学省の委託事業「成長分野等における中核的専門人材養成等の戦略的推進事業」を継続的に受託してきた。
- ・平成28年度は社会人の学び直しをテーマに、「企業との連携による高度化、専門家教育プログラム開発」に取り組み、「リテイ

ルマーケティング」「売場管理・商品管理」「店舗における人事管理・マネージャーの職務」の教育プログラムを開発し、企業3社の協力得て、開発プログラムの実証を行った。29年度は新規の教育プログラム開発と並行して、実証講座でプログラムの検証に取り組む。

- ・関西ファッション連合の加盟企業の管理職を対象に「社会人の学び直し」教育プログラムを提案する。

### 3. 質疑応答

糸井：就職しない人はどの程度いるのか？ 40人程ですか。

大橋：そこまで多くはないが、30人程度いる。なんとなくアパレルに就職したくない、あるいは語学留学を希望するという学生達もいる。ファッション業界に就職しようと思って入学してきたが、なぜ就職したくないのか？ はっきりとした理由は不明。

植田：そういった学生達は、勉強をしっかりとやっているのですか。

校長：勉強は楽しらしく、さぼっているわけではない。内定をもらっても辞退する学生もいるし、急にアパレルで働くのが嫌という学生も目立つようになった。

大橋：自己アピールをどのように書くかとか、模擬面接をするとかという以前に、「働くことの意味」「働くことの動機づけ」が必要になってきたのではないか。

理事長：玉屋ではどうですか。入社辞退者は？

植田：内定辞退はあまりない。2割位です。

田中：うちは多いです。専門学校は少ないですが、大学が多い。会社説明会を何度も行っていますが、採用しにくくなっている。話は変わるが、1年生の退学が多いとの指摘があったが、実態は…。

校長：28年度の新入生287人のうち79人が中途退学した。退学率は全校で15%だが、特に新入生が率を押し上げた。

糸井：一昨年はどうだったのか。

校長：1年生の退学者は35~36人くらい。全体では60人余りでした。率は10%前後で推移していたから急激に悪化した。

糸井：他の服飾専門学校も退学者の増加に頭を悩ましている。

ある学校では教職員が中途退学希望者の家庭を訪問しているようだが、効果がないのが実際らしい。

校長：今まで退学率は10%弱だったが、28年は特に悪かった。この数字を8%程度に抑えることを目標に教職員が一丸となって取り組んできたが、想定外の率になってしまった。入学希望者が進路について深く考えずに入学してくるのか、少し勉強しただけで難しいと思って辞めてしまうのか、あるいは入学者の選考段階で問題があるのか、判断しづらい。ただ29年度から入試面接のあり方を改め、入る前に本人の意思をしっかりと確認するようにしたい。

植田：当社でも高卒採用者は、アッサリ辞めます。

校長：入学して比較的早い段階、1~2カ月で辞める学生が増える傾向にある。

植田：半面、高卒採用でも残る子はしっかりして、仕事も頑張る。2極化しています。

理事長：退学者対策として、個別面談を実施して早めに転科を勧めます。

校長：29年度は5人の転科を認めました。

理事長：クラス編成にも気配りする必要がある。A0入試面談で気づいた点を教員が共有し、クラス編成や入学後の学生指導に反映させる。今年の試みで成果がでると思う。

大橋：入り口戦略に課題がある。

校長：4月末に行ってきた新入生宿泊研修も「学校に馴染む」「友達づくり」が目的です。入学して2週間以内に実施するように来年から日程を改めることにした。

榎原：学生が軽薄化している。内定を取りやめた学生など先を考えていない。親も子離れしていないし、子も親離れしていない。アルバイトの時給が高いから今しか考えていない。

杉山：28年度に外部コンテスト入賞に特化した「クリエイティブデザイナーコース」をスタートさせ、授業の中で様々なコンテストに挑戦させた。それを就職に活かせたのか、東京を受験する学生が増えた。リアルクローズを勉強するアパレルデザイナーコースは、大阪受験者が多い、

志貴：クリエイティブデザイナーコースは、4年制ですか。

杉山：クリエイティブデザイナーコースは、ファッションクリ

エイター学科の中のコースで3年制です。スーパーデザイナー学科は4年制です。

理事長：デザイナー職の就職では、他校に比べて大手アパレルに強い。

校長：企業との連携事業の内容を強化した。例えば、パルとサンエーBDの冠講座を後期に開設し、企業と同じ研修を取り入れた。この結果、学校選抜「販売ロールプレイング」に出場し優勝した。今後は教員研修にも力を入れていきたいので、企業にも協力してほしい。またアパレルCADはパタンナーには必須だが、検定制度がない。関西ファッションカレッジコンソーシアムとも連携して実施できるようにしたい。

田中：留学生の割合2%にとどまっているが、

大橋：上田安子は5%。モード学園は10%程度です。

理事長：東京の文化服装学院は3000人のうち600人程が留学生と聞いている。イタリアのポリモーダ校は、偏って中国留学生が多いらしい。日本の場合は言葉の問題（留学に日本語検定2級以上の資格がいる）もあり、当校では10%以内が妥当と判断している。

田中：海外の学校との提携や関係づくりに力を入れている。

理事長：優秀な留学生を呼びこみ、学生の刺激としたい。また、フィリピンで学生に英語を学ばせることも考えており、学生の視野を広げるのが狙い。

岩崎：日本語学校では中国・韓国・ベトナム人が多い。多くは高学歴で勉強は良くできる。こうした優秀な人材を取り込みたい。

植田：留学生の就職はどうですか。

校長：今年は中国の留学生が島精機に内定した。

田中：奨学金についてお聞きしたい、

大橋：学校独自の奨学金は、金額も人数も増やしましたが、15人くらいです。同窓会のすみれ会の制度もある。全て給付型です。しかしまだ大学程には至っていない。

校長：パルや堀田財団等の企業の奨学金もあるが、貰っている学生は一部です。学校として就学金制度を拡充してきたが、まだ未整備な点が多い。

大橋：奨学金の傾向も変わってきている。地元に戻れば一部給

付になるものもある。国の給付はこれからあまり期待できない。

理事長：教育無償化の対象から専門学校は外れているので、やはり専門職大学は必要。

山名：うちの子は今年卒業で無事に内定も頂きましたが、2年次に作品が間に合わなく留年を経験しました。先生から留年せずに、間に合う前に一報ほしかった。親も子も先生との対話の方法が分からなかった。

榎原：担任が問題ないと判断した場合、親に連絡しないことがある。特に成績、出席状況が優良な学生の場合などだ。

理事長：一方では保護者の方々は(先生方と)話したい。

校長：定期的に保護者相談会を設けているが、参加は限定的。

大橋：就職相談にとどまらず、よろず相談となる場合もある。

松下：担任に相談できず、一人で悩んでいる子もいる。相談できる様々な場がある。

大橋：学校はコミュニケーションを取る場だが、それが変わってきた。

植田：学生の成績は親にも送るのですか。

大橋：個人情報に当たりますので、学生面談後本人の了解を得てから親に送っている。

植田：入学前に了承を取ればよいのですね。

榎原：半面、子供の学業に無関心な親もいる。

志貴：親として何処まで係わるか、難しい。親としては、子供が先生と話をし、コミュニケーションをとっていることが分かると安心する。保護者にとっては、教員と生徒の関係が見えるようにしてほしい。学生ではなく、先生が待ちの状態、つねに受入れてくれる教育環境にあること、こうした状態を確保してほしい。

#### 4. 次回委員会の開催予定

次回は10月を予定。

以上